

集中時間の短い子は、教室の掲示物や前の時間の子どもにつかった教材に注意が移りやすいです。

同じ教材をつかってくり返しの勉強ではあきてしまいます。

そのときに、教材を探しては、ちがうものに関心が移ってしまいます。

また、何をどれだけするのか、がわからなければ、不安に思います。

TEACCH プログラムに、子どもたちが見通しを持って活動できるように「実物によるスケジュール表」「絵によるスケジュール表」「文字によるスケジュール表」というのがあります。

これを参考にして取り組んでいます。

その1 課題箱をつかって

指導時間につかう絵カード、本、ノートなどを見せる。

「きょうは、この箱の中のものをつかって勉強をします。」

箱の中の課題をひとつずつ取り出し、していく。

終わればちがう箱に入れていく。

はじめの箱が空になれば、その時間の指導を終わる。

この方法では、はじめ何をするのは分かりません。

しかし、どれだけすればおわりなのか、すぐに理解できるでしょう。

その2 課題カードをつかって

「ことば」「かず」「こくご」「さんすう」「国語」「算数」などと書いた課題カードをはじめに提示する。

「きょうは、これだけ勉強をします。」

課題のひとつが終われば、そのカードをしまう。

課題カードがなくなれば、その時間の指導を終わる。

この方法だと、1の方法と反対に何をするのはわかりますが、どれだけするのかがわかりません。

1、2の方法とも問題はあります。

ただ、学習の仕方は子どもによってパターン化していますから、継続して取り組んでいくことで、1時間の指導にも集中するようになっていきます。

その3 課題メモをつかって

課題を箇条書きに書いたメモを提示します。

「きょうは、この勉強をします。」

課題の一つが終われば、子どもが線を引き、チェックします。

メモに書いてある課題全部にチェックが入れば、その時間の指導を終わります。

その4 課題すごろくをつかって

10個のオセロのこまを並べておきます。

「きょうはこの数だけ、勉強します。」

ひとつ終わるごとに、こまを裏返していきます。

全部裏返せれば、その時間の指導を終わります。